

《陸上自衛隊ヘリ離着陸訓練を実施しました》

10月3日(火)、女川原子力発電所では、発電所構内の「女川原子力ヘリポート」において、陸上自衛隊第6師団※(以降「第6師団」と表記)との合同による自衛隊ヘリコプター離着陸訓練を実施しました。

当社は、第6師団が所属する陸上自衛隊東北方面隊との間で、平成25年4月に、各種災害発生時において円滑な相互協力を図ることを目的とした協定を締結しています。

今回の訓練は、当発電所としては初めて実施したもので、自然災害の発生に伴い、牡鹿半島につながる全ての道路が寸断されたとの当社からの連絡により、第6師団が発電所周辺地域の救援のためにヘリコプターを自主的に派遣したという想定で行いました。

同訓練において、当発電所は、有事の際の自衛隊との情報連絡経路やヘリポートでの離着陸に必要な準備等について、あらためて確認しました。

また、同訓練に合わせ、第6師団15名の方々に、防潮堤をはじめとした当発電所の安全対策の状況をご視察いただきました。

※第6師団は、山形・宮城・福島の南東北3県の防衛警備・災害派遣などを担当し、5つの駐屯地にそれぞれ14個部隊を配置しております。また、有事の際や大規模災害発生時には、他方面隊管轄地域に派遣されることになっております。同訓練では、神町駐屯地(山形県東根市)からの出動となりました。



「女川原子力ヘリポート」へ着陸した様子

日頃から緊急時に備えた訓練を実施し、発電所員の対応能力向上に努めております。今回の訓練を通じて、有事の際は、事業者だけではなく、関係機関との連携・協力が非常に重要であると、あらためて確認することができました。今後も訓練はもとより、関係機関との円滑な連携を図り、原子力発電所の安全確保に万全を期してまいります。

技術統括部 技術グループ 熊谷友明(岩手県出身)



《「復興まるごと体験ツアー2017夏」が行われました》

～女川町の魅力を凝縮した大人の社会見学～

9月9日(土)、「復興まるごと体験ツアー2017夏」(主催:女川観光協会、共催:女川町、協賛:東北電力)が開催され、女川町にお住まいや勤務されている方々28名が参加されました。

ツアーでは、水産の町の復興のシンボル「マスカー(大型冷凍冷蔵施設)」や西区高台から「1000年に一度のまちづくり」とも呼ばれる女川町中心部の大規模造成工事などの見学のほか、女川湾クルーズや海を眺めながらの海鮮バーベキュー昼食会が行われました。

また、見学コースの一つとして、女川湾内から女川原子力発電所をご覧いただくとともに、女川原子力PRセンターにもお立ち寄りいただき、原子力発電の仕組みや当発電所の安全対策工事の概要について、ご理解を深めていただきました。



「女川湾クルーズ」の様子



女川町中心部の「大規模造成工事」見学の様子



「女川原子力PRセンター」見学の様子

《東北電力杯女川・牡鹿親睦交流グラウンド・ゴルフ大会を開催しました》

10月4日(水)、女川町第二多目的運動場において、「第6回東北電力杯女川・牡鹿親睦交流グラウンド・ゴルフ大会」(主催:女川グラウンド・ゴルフ協会、協賛:東北電力)が開催されました。

当日は天候にも恵まれ、女川地区および牡鹿地区から80名が参加し、日頃の練習の成果を発揮しました。



プレー風景



上位入賞された皆さん

男性の部	
第1位	渥美忠男さん(女川協会)
第2位	木村留之助さん(女川協会)
第3位	松川弘さん(球遊会)
女性の部	
第1位	遠藤重子さん(球遊会)
第2位	中鉢わか子さん(女川協会)
第3位	平塚とみ子さん(女川協会)

《おながわ秋刀魚収穫祭2017に参加しました》

9月24日(日)、女川駅前商業エリアにおいて、「おながわ秋刀魚収穫祭2017」(主催:女川魚市場買受人協同組合)が開催されました。

当日は、同エリア内にある女川原子力発電所地域総合事務所1階の多目的スペースにおいて、東北電力IH料理教室(参加者:39組84名)を開催し、旬のさんまを使用した「さんまの竜田揚げ」や「さんまご飯」をご試食いただきました。

また、キッズエリアでは、当社キャラクター「マカプゥ」の大型遊具「フワフワマカプゥ」や高所作業車を展示し、ご来場いただいたお子さま方に楽しんでいただきました。



「さんまの炭火焼き」の様子



「IH料理教室」の様子

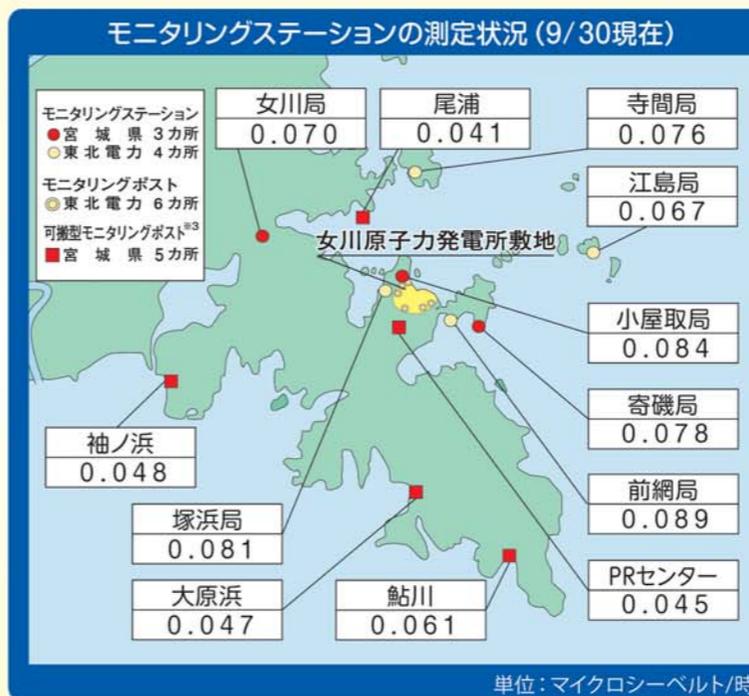


「キッズエリア」の様子

《女川原子力発電所周辺の放射線量は安定しています》

女川原子力発電所周辺の放射線はモニタリングポスト^{*1}やモニタリングステーション^{*2}で測定・監視しており、その測定値は宮城県および当社ホームページで公開しています。

発電所敷地内に設置してあるモニタリングポストの現在の測定値は、最大で0.053マイクロシーベルト/時程度で安定しており、健康に影響を与えるレベルではありません。



(参考)モニタリングポストの最小値と最大値

東北地方太平洋沖地震発生日	測定値
平成23年3月11日	0.027~0.064
(地震発生後最大値)	
平成23年3月13日	1.8~21 ^{*4}
(地震発生以降毎年度(4/1)の値と至近値)	
平成24年4月1日	0.063~0.098
平成25年4月1日	0.055~0.076
平成26年4月1日	0.046~0.065
平成27年4月1日	0.043~0.077
平成28年4月1日	0.041~0.061
平成29年4月1日	0.038~0.059
平成29年9月1日	0.037~0.056
平成29年9月30日	0.037~0.053

単位: マイクロシーベルト/時

^{*1} モニタリングポストは発電所敷地周辺の環境放射線を測定しています。女川原子力発電所の敷地境界には6基のモニタリングポストが設置されており、その最小値と最大値について、東北地方太平洋沖地震の発生日の値、それ以降で最大値が測定された日(平成23年3月13日)の値、毎年度(4月1日)の値、至近の値を掲載しています。

^{*2} モニタリングステーションは環境放射線に加えて気象データを測定しています。

^{*3} 宮城県では、震災により測定不能となっているモニタリングステーションの代替として、可搬型モニタリングポストによる測定を行っています。

^{*4} 東京電力福島第一原子力発電所からの放射性物質の放出に伴い測定されたもので、測定された時間は約10分間です。

《交通安全活動を実施しました》

9月26日(水)、秋の全国交通安全運動にあわせ、当発電所および構内協力企業は、安全運転意識の向上を目的とした交通安全活動を行いました。

当日は出社時間帯にあわせ、発電所周辺道路にて交通安全メッセージが書かれたのぼり旗を掲げ、往来する車両に安全運転を呼び掛けました。



のぼり旗を掲げて交通安全を呼び掛ける
当発電所および構内協力企業社員